

講演会及び研究集会の記録

平成27年度弘前大学高大連携シンポジウム

テーマ「大学入学後の学修支援に向けた 高大連携の模索～メンタルヘルスの視点から」

21世紀教育センター 田 中 勝 則

本学では平成14年度より毎年、高校と大学の教育内容をお互いに知り、意見交換を通じて学生への教育に資することを目的として、高大連携シンポジウムを開催しています。高校から大学への移行期にあたる学生は、進路に限らず様々な悩みを抱えていることが少なくありません。また、高校から大学への移行期は学習環境の変容のみならず、住環境や対人関係の変化等大きな変化を伴い、学修に困難をきたしやすい時期でもあります。

こうした背景を踏まえ、平成27年度は「大学入学後の学修支援に向けた高大連携の模索～メンタルヘルスの視点から」というテーマを掲げ、高校および大学関係者との間で意見交換を行うことになりました。

今回のシンポジウムは2部構成で実施されました。教育担当理事である伊藤成治先生による開会の挨拶に続き、第1部では北翔大学教育文化学部准教授で臨床心理士の澤聡一先生に「メンタルヘルスの観点から見た学修支援に向けた高大連携」という演題で、ご講演頂きました。澤先生からは、高校から大学への移行期にある学生の抱える様々な悩みやメンタルヘルス上の諸問題、および、ご自身のこれまでのご経験や現在取り組んでおられる高大連携による支援の取り組み事例に関して、ご紹介頂きました。



シンポジウムの第2部では、5名のシンポジストによる話題提供が行われました。まず、高等学校側から2名の先生にご講演頂きました。弘前高等学校教諭の藤田正雄先生からは、入学前から開始される不登校防止を目的とした学習面、精神面への多面的なアプローチ例についてご紹介を頂きました。毎年、数名の不調を抱える生徒が存在するものの、数多くの支援を行っているが故に、それ以上の不適応者の拡大が生じずに済んでいる、というご発言が印象的でした。

次に、高等学校の養護教諭の立場から、青森南高等学校の新井美央子先生にご講演頂きました。新井先生からは養護教諭のみならず、心身の健康問題への対応に向けた高校の各教職員の役割について詳細にご解説頂いたうえで、学校で健康を司る立場にある養護教諭の立場から、移行期にある学生への支援の在り方について、お話し頂きました。



その後は、大学側から3名のシンポジストによる話題提供が行われました。まず、本学農学生命科学部教授の藤崎浩幸先生より、弘前大学における取り組み事例として、クラス担任の立場からの紹介がありました。シームレスな高大連携が必要である一方で、学生の成長に際しては良い意味での高大間のギャップも重要で

あるという指摘を頂きました。

引き続き、本学で教務担当として学生対応の窓口対応経験を重ねてきた田村真理子氏より、事務職員の立場から学生対応で感じる困難さや悩みについて話題提供がありました。田村氏からは事務職員としての定期的な異動、学生相談に際しての専門的な知識や対応技術の不足、および学生からの相談内容の情報共有における悩みが語られました。普段、なかなか聞くことのできない事務職員の立場からの声は、今後の学生支援体制をよりよいものにしていくために貴重なものとなりました。



最後に、本学保健管理センター准教授でカウンセラーとして学生に対する相談業務に従事する田名場美雪先生より、高校から大学への移行期において見られる学修に関する課題、および、同センターに相談に訪れる初年時学生の最近の特徴に関して、ご講演頂きました。「高校生から大学生になるのはちょっと大変」というお話には、納得させられるものがありました。

以上のシンポジストによる話題提供後には、第1部でご講演頂いた澤先生を指定討論者に迎え、シンポジスト5名との間でのディスカッションを行いました。指定討論者の澤先生からのシンポジストへの質問を皮切りに、ディスカッションではそれぞれの立場から活発な意見交換がなされました。

最後は、閉会にあたり21世紀教育センター長の木村宣美先生より挨拶があり、盛況のうちに今年度の高大連携シンポジウムも終了しました。

シンポジウムには、学生や高校および大学関係者等の参加がありました。参加者からのアンケートからは、「様々な立場の方から、実体験に基づいた話が聞けて良かった」、「これから働く上で参考になった」、「本日の内容を大学の教員にも知ってほしいと思った」といった声を頂戴しました。

